・西南学院大学・
図書館報

No. 81
昭和54年11月2日発行
〒814
福岡市西区西新6丁目
西南学院大学図書館

知恵についての随想

文学部教授　八田正光

「知恵は宝石にまさり，
あなたがたの望むすべての物は，
これと比べるにたりない。
知恵であるわたしは悟りをすみかとし，
知識と慎みとをもつ。」

これは旧約聖書箴言第8章11節と12節のことばである。旧約聖書の中には，ソロモン王時代（紀元前十世紀）に遡る知恵伝承が紀元前五世紀以降の知者たちの顕著な活躍によって編集され，あるいはまた著作されて，いわゆる「知恵文学」とよばれる文書が含まれている。その主たるものに，多くの知恵教師の格言集とも称される『箴言』，人生の懐疑と虚無についての知者の思想断片集『伝道の書』，苦難の問題を媒介として宗教の本質を追究した文学書『ヨブ記』がある。その外旧約外典には，『ベン・シラの知恵』，『ソロモンの知恵』がある。

「知恵」は一般に，経験から体得した教訓，処世訓，格言，また人生の意味，意義についての考察を含んでいる。それは単なる理論的認識でなく，実践的要素を含んだ，包括的なはたらきを意味している。その内容は多義的であり，全人的である。それを歴史的に考察するとき，知恵は複数の異質の思想体系を結びつける役割を果している。たとえば，箴言の古い伝承には，エジプトの知恵（「アメン・エム・オペの知恵」，「ドウアウフの教訓」）およびアッシリアの「アヒカルの箴言」との類似が認められている。紀元前二世紀になると，ギリシア思想・文学との接触が顕著で，ギリシア文学・哲学の用語や文学形式が用いられている。このように知恵文学には広くかつ緊密な，諸文化圏との接触と交流がなされている。

知恵の概念はさらに知恵の擬人化，人格化がなされており，そこでは人に働きかける創造の秩序の力，世界秩序の秘義が考察されている（箴言8章，ヨブ記28章，ベン・シラ書24章，ソロモンの知恵7章）。新約聖書においてはこの知恵の概念が用いられて，キリスト論が展開されている（Ⅰコリント1：24，コロサイ1：15―20，2：3）。

知恵思弁は，旧約において啓示が人間のあらゆる努力を超える他者よりの賜であるのに対して，人間の理性と体験に支点をもっている。いわば前者が上より下への方向をもつのに対して，後者は下から上への方向を示している。したがって，知恵は人間の主体性に深くかかわっている。知恵は人間がみずから，または他人と共に，外部世界に対処しつつ生きる根源的な努力である。そして，人間の主体性を形づくる自由に結びついている。しかしそこには，悪知恵に頽落する可能性も潜在している。パウル・ティリッヒは知恵の曲解として，「きびしく迫られた決断を打算的に回避すること」および「ずる賢い妥協や利益の打算」を知恵ととり違えて混同することを指摘している。

「主を畏れることは知恵のもとである，聖なる者を知ることは，悟りである」（箴言9：10）。聖書の知恵文学の根底には，生の究極的な神秘との出会い，聖なるものとの出会いが知恵の源として強調されている。そして無限なる者の前での自己の存在の限界と有限性の認識が知恵への決定的な段階であることを説いている。（キリスト教学）

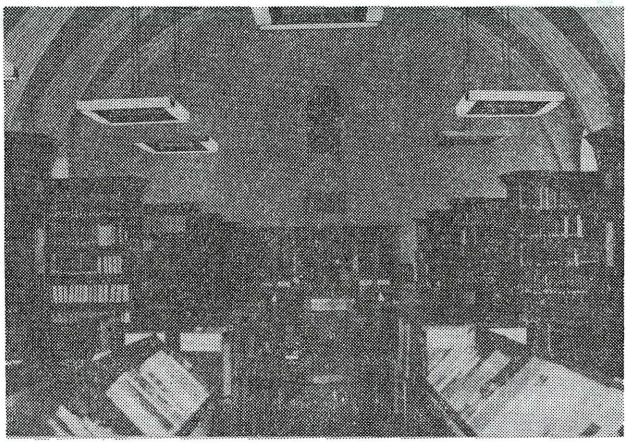
ロンドンでの図書館のことなど

文学部教授　古　屋　靖　二

「どこのコレッヂに通学しているんですか？」と尋ねられる度に，「ベッドフォード・コレッヂです，ほら，あのリージェント・パークの中にある……」と答えることに，ある程度の満足感を抱いたものだった。確かにこのコレッヂ（ロンドン大学のコレッヂの一つ，元，女子のコレッヂ，今は共学）の地理的条件は，特にその周囲の環境の良さという点において，大いに自慢できるものだった。ベイカー・ストゥリート駅で地下鉄を降り，コレッヂ内の英文科がある建物，ザ・ホーム（The Holme）まで歩いて7，8分の距離だったが，その間に接する公園の風景は，湖あり，小さな橋あり，季節に応じた百花りょう乱の花壇あり，緑の芝生あり，と実に楽しい眺めだった。湖に泳ぐ水鳥の群れ，空を飛び交う小鳥達，その上時折物欲し顔に木影から近寄ってくる小リスの姿は愛らしかった。

もっとも，予想通りの早い冬の訪れ，さらに予想以上の長期にわたる寒波の停滞は，市民の憩いの場であるはずの公園を，その間一層耐えがたいわびしさでおおい包んでしまっていた。日本が暖冬だとの便りを受け取る度に，それだけ膚寒さが一層身にしみたものだった。待ちに待った春の訪れによって，それまで堅く蕾を閉ざしていたクロッカスがようやく咲き始めたのは，既に3月の下旬頃だったと思う。授業の合間に公園の芝生の中に入り，備えつけの折りたたみ式の椅子に体を伸ばして温かい陽光を浴びることのできる日は，稀にしかなかった。膚寒く，わびしい日は，コレッヂ内の図書館で時間をつぶしたが，小じんまりとまとまった，古いこの建物が，周囲の静かな環境に囲まれて，落着いた雰囲気を醸し出していた。蔵書数は，全部で約20万冊と少なく，例えば私にとって興味があったエリザベス朝演劇関係の作品，参考書類は乏しく，また学生による本の借出期間が4週間という点で，不便を感じることが多かった。しかしこの図書館の魅力の一つは，一人の借出冊数に制限がないことであった。

必要な本がこの図書館にない時，ラッセル・スクウェアに面するセネット・ハウスの建物の中にあるロンドン大学図書館まで足を伸ばすと，大体報われることが多かった。ここは蔵書数100万冊，学生の借出冊数は6冊以内に限られていたが，3ケ月という長い借出期間は，大いに助かった。そしてこの図書館に来る魅力の一つは，この同じ建物の3階にある職員食堂で，大体市価の半額以下の値段で，しかもおいしい食事にありつけることであった。



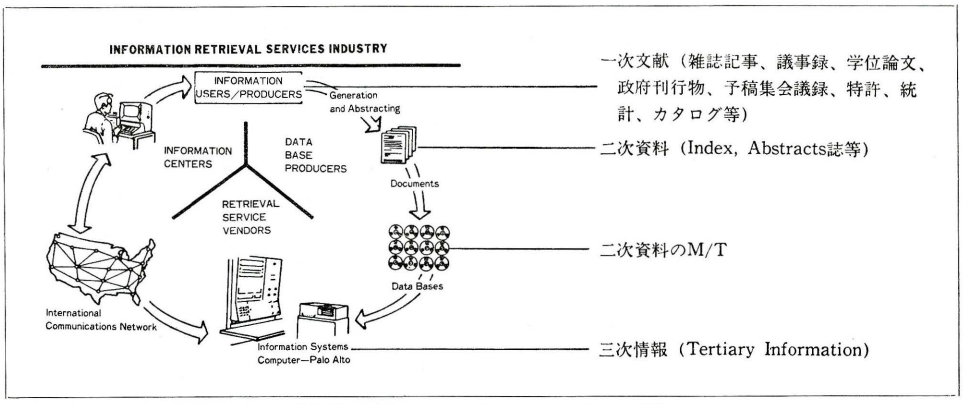
（ベッドフォード・コレッヂの開架閲覧室）

私が住んでいたサウス・ウッドフォードという，ロンドンの郊外の町は，ベッドフォード・コレッヂまで地下鉄で1時間を要するという不便な所であった。従って，通学しない日は，専らその町にあるパブリック・ライブラリーへ度々通ったものだった。これは市内のいたる所にある公立図書館の1つで，私の家から車で3，4分で2つのパブリック・ライブラリーに行けるという，その充実振りが，日本の現状と比べて強く印象に残っている。老若男女を問わず，幅広い市民層によって，自由に利用され，まさに精神的な安らぎ，知的潤いを求めて来る人々のオアシスの場であった。私にとって，色々なその日の新聞，あるいは雑誌に目を通す楽しさはもちろん，一般図書の借り出し，楽譜やレコードの借り出し（1枚5ペンス，当時約20円）の外，必要に応じて色々な文献のコピー（1枚5ペンス）の恩恵に浴した。コンサート，劇，ジャンブル・セール（がらくた市）その他の催物の広告を，掲示板で発見することも，大きな楽しみであった。

（英語・英文学）

情報化時代の図書館に望む

商学部教授　平　田　正　敏



（文献検索システムネットワークの1例）

いま，次のような情況を考えてみよう。

図書館の片隅に，ディスプレイ端末装置があって，それにプリンターが接続されている。ここに座って所定の手続をしたあと，研究しようとする項目をインプットしてみる。すると，西南の図書館にある雑誌名とその研究項目を扱っている頁が次々に印刷される。続いてＩＬＬ（Inter Library Loan）のキイを押すと，西南にない雑誌名と所在場所とその項目の頁が印刷される。このようになったら，研究者にとって非常に便利であり，図書館の機能について云々することはなくなるものと思われる。

夢ではないのか!!　そう，夢である。

しかし，この夢の実現に向って，現実は鼓動していることが忘れられてはならない。いま，かかる情報検索システムとして利用可能なものに，東京大学大型計算センターのＴＯＯＬ－ＩＲ，筑波大学学術情報センターのIDEAS／77，広島大学計算センターの HUNDRED，名古屋大学大型計算センターのＮ－ＫＷＩＣがあり，かなりの分野に亙って，利用可能となっているのである。なかでも，東大と筑波大のものは，公衆回線によりオンライン検索可能となっている。社会科学系のものは米国で作られた〝Social Sciences Citation Index〟が筑波大学にあり，1年に 30.000 件の文献情報が登録され，利用可能である。また，広島大学附属図書館では，洋書図書目録をコンピュータ化したＨＵＭＡＲＣをもっているようである。

しかしながら，これらの施策はまだ実験段階であり，冒頭に述べた情況は，やはり夢である。だが，昭和54年6月に学術審議会が発表した「今後における学術情報システムの在り方について」（中間報告）は，上のような夢の実現を図るべく，情報化時代の図書館の方向として，国立七大学大型計算機センターのネットワークを整備して，これを軸として，オンラインシステムによるＭＡＲＣ（Machine Readable Cataloging）を作成して，上の文献検索が可能なようにしようと呼びかけており，この方向へ，ここ数年のうちに相当に進歩するものと思われる。そして既に，私の知る限り，慶応大学，京都産業大学，金沢工業大学など，私立大学など情報処理教育連絡協議会のメンバーの中でも，図書館のコンピュータ化を図りつつあるのである。

西南学院大学においては，この9月にＨＩＴＡＣ M-160Ⅱシステムが新しく導入され，やっとデータベースが作れるようになったが，これを機会に，せめて商学・経営学部門だけでも，学術文献情報データベースによる検索システムを完成させて，上の全国的な波にのっていきたいものである。いろいろな困難もあろうが，努力の価値はあるであろう。

（電子計算機センター所長・計量経営学）

レファレンス事例

参考係

最近利用者から寄せられた参考質問のうちから，2・3の事例を紹介して，他の利用者の参考にしたい。

〔質問1〕 Saul Bellow の小説 Seize the Day の書評，批評・分析した論文を英文のもので見たいのですが。

回答例： 過去10年間位のものを累積した次のようなものを見ると検索に便利である。

1．Articles on Twentieth Century Literature. 5 vols. (Kraus-Thompson,1976) これで調べると雑誌論文が4点載っている。

次にこの論文が収載されている雑誌を調べると4点とも本館に所蔵していることがわかった。

2．Comprehensive Index to Little Magazines, 1890—1970. 8 vols. (Kraus-Thompson, 1976)

これにも上記とは違う批評文が4点載っている。このうちその論文が載っている雑誌は3点が本館に所蔵していた。

その他書評だけを調べたいような場合には，

National Library Service. Cumulative Book Review Index, 1905—1974 で調べてみると3点の書評が出ていることがわかる。

〔質問2〕「週刊東洋経済」の前誌「東洋経済新報」の明治30年前後に出版された目次を見たいのですが。

回答例： 本館には現物が昭和12年以降の分しか所蔵されていなかったので，この雑誌の目次だけを収載したものが発行されているかどうか次のような資料で調べてみたら，質問にぴったり合うようなものが見つかった。あいにくこの目次が収載されている雑誌は本館には所蔵されていなかったので，他館よりコピーを取寄せて利用者に渡した。

雑誌総目次索引集覧 増補版 天野敬太郎（編）（日本古書通信社）昭44

の経済・統計編に「東洋経済新報」の第1号（明28・11・15）～126号（明32・6・5）までの目次が「早稲田大学図書館紀要」第4号，昭37・12，pp.215～227に載っていることが判明した。

〔質問3〕オーストラリアの主要な新聞と大体の発行部数を知りたい。

回答例： いろいろなものに出ているが，最新のデータとしてはやはり年鑑類を調べた方がよいようである。

The Europa Yearbook 1978を見るとThe Pressの項に州毎に日刊紙と週刊紙を分けて記載してある。ちなみに日刊紙で発行部数の多い上位3位をあげると

Sun News-Pictorial（朝）	625,000部
The Herald（夕）	435,600
Daily Mirror（夕）	377,500

〔質問4〕 WHO の憲章全文を知りたい。（日本語）

現行法規総覧 89巻 条約(2)61-5にWHO（世界保健機関）の憲章全文が出ている。

その他この「現行法規総覧」は，憲法，法律，勅令，政令，条約，府令，省令，規則まで収録している詳細な最大の法規集である。廃止法令の索引も付いている。

〔質問5〕 ジュリストの臨時増刊として刊行された「交通事項（新版）」を探しているのですが。

回答例： 利用者から昭46年の出版物に引用されていたと聞いたので，それ以前の出版ということを摑んで，「邦文法律雑誌総合目録1978」（法律図書館連絡会，国立国会図書館）の「ジュリスト臨時増刊」の項の内容を見ると本誌の431号（昭44・8）として出版されていることがわかった。ちなみにその時の雑誌のタイトルは，「特集・交通事項」だった。本館の場合臨時増刊として特定のタイトルをもって出版されていても，本誌の継続番号が付いているものは，一緒に製本して整理するので，号数がわからないとなかなか見つけにくい。そういう場合は上記の目録によって号数を見つける。この目録は，今まで出版されたものすべてを出版年順に記載してあるので，出版年がわからない場合には便利である。大体の出版年がわかっている場合は，100号毎（2年間）のジュリストの内容総索引を見れば載っている。

文献検索の苦労

経済学部教授　時　政　勗

論文の末尾に付けられている参考文献は，本文をフルコースの料理にたとえると，デザートのようなものである。そこで，丁度，上手な料理人が，デザートに時間をかけるように，論文の筆者は参考文献ができるだけ魅力的であるように苦心する。それは，彼が負っている文献をすべて掲げれば，その学問分野のほとんどの文献を羅列することとなり，そうでないとしたら，参考文献は所詮不完全なものに過ぎないからである。

そこまで行かなくとも，どんな論文の参考文献でも，それは最小限，正確なものでなくてはならない。私自身コピーした文献に出版年までは書いてあったのだが，出版された月が書いてなく，その月を調べるため，本学図書館から原論文のある大学図書館への入館願いを出してもらい，半日かけて出かけたこともあった。しかし，このような文献検索作業は，どちらかというと気楽なものである。

やっかいなのは，研究論文本文の作成の過程での検索である。以下この問題を中心に，私の経験をのべよう。このケースは，さらに二つの場合に分けられる。一つは，自分の研究の位置づけと，その分野にこれまでなされた業績を調べるためであり，いま一つは，自分の取り組んでいる問題を解決するため，何か参考にすべき文献がないかどうかを調べるためである。新しい問題を研究している時は，前者はとくに厄介というわけではない。なぜなら，多くの人がその問題にとりかかっているのは，まだその問題が解決されていないし文献も少ないからである。それでも，その問題に関する古典的な論文や，その古典的論文を解説した論文，さらに関連論文等できるだけ多く集めて，その中から何本か目ぼしいものについては，腰を落ちつけて読む必要がある。

その際の文献検索は，何かの論文の参考文献をみて関連論文をみつけ出し，さらにその論文の参考文献を調べるという風に，イモヅル式にたどるやり方である。もし欲しい文献が単行本なら，図書館の著者名目録を引く。なければ，近隣大学の知人に頼んで捜してもらう。それでもなければ，学会出張の折に国会図書館に行って捜す。しかし，単行本を手にするのは中々難しい。必要なものが雑誌論文で，本学図書館にないなら，5階の参考・資料係へ行って，その雑誌を近隣大学が所有しているかどうか，「学術雑誌総合目録」をみせてもらいコピーの発送を頼むということで，これは比較的手に入り易い。

ところで，第二の場合，つまり，ずっと考えている問題で，どうもここが明らかになれば問題解決ができるのではないかというところまで問題点が絞り切れた時（私の場合，通常そういう数学の定理があるかどうかを探したい時）である。普通はその道の専門家に聞いて関連文献を教えてもらうが，わからない時は，図書館にある数学の雑誌を一号から順にめくっていく。もちろんこれは全く徒労に終ることも多いが，一見，学者の様々な研究論文を集めているように見える雑誌も，エディターが，それなりに，体系的に編集しているので，バックナンバー全てをめくっていくと，大体の内容のカバーができるようになっているから，望みなきにしもあらずである。

こういうシラミツブシ的文献検索作業は，また講義案を作ったり，他の人からあるテーマについて質問を受けたりした時，その分野でどういう定説が確立しているのか，基本文献を探したい場合と同じであるが，もっと合理的に検索する方法があるのではないかと思われる。大学病院では，検索カードというものがあって，患者が退院する時，その人のカルテから所見，年令，性別等が書きこまれた一枚のカードを作成しておく。あとである病気について調べたくなった時，必要な項目をチェックすると，カード検索機から関係するカードがパラパラと落ちてきて，そのカードから逆に元のカルテを探し出して，病気に関するデータを揃えるという方法をとるそうである。これと同様，たとえば本学の所蔵雑誌に含まれている情報のインデックスカードを作り，必要な論文をコンピュータを使ってとり出せるようにしておけば，図書館の提供する情報量は飛躍的に増大すると思われる。

（産業連関論）

関

☆お知らせ・ニュース・NEWS☆

＜コインロッカーの設置＞

一階ホールにコイン式のロッカーを設置しました。図書館利用時には，カバン，オーバー，レインコートなどの外衣，その他の携帯品をこのロッカーに納めてから利用することになります。

下記の要領で利用してください。

① 図書館利用時に限り利用してください。

② 携帯品を中に入れ，100円硬貨を硬貨投入口より入れて鍵を抜き取ってください。

③ 2階受付でロッカー番号を告げ，学生証を提出し，開架閲覧室利用票を受取ってください。館内利用中，鍵は各自紛失しないよう保管してください。

④ 退室時には，開架閲覧室利用票を提出し，ロッカー番号を告げ，学生証を受取って退室してください。

⑤ 退館のときは，ロッカーの鍵を差し込むと100円硬貨はもどってきますので，忘れずに持帰りください。この時，鍵は館外に絶対に持出さないよう注意してください。

⑥ 一時外出は認めませんので，いったん退室の手続きを経たうえで，ロッカーを開け，携帯品を取出して退館してください。

＜レコード聴取室の設置＞

このたび4階ホールにレコード聴取室を設けました。これは一度に6人までが同じレコードを聴くことができます。下記の要領で利用してください。

① 利用申込書に所要事項を記入して申込み，部屋の鍵と装置の鍵，ヘッドホーン，希望レコードを受取ってください。

② 必ずヘッドホーンを着用して，他人に迷惑をおよぼさないようにしてください。

③ 終ったら装置と部屋の錠をかけて，鍵，レコード，ヘッドホーンを2階カウンターに返却してください。

④ 故障したり，損傷しやすいので慎重に取扱ってください。

＜雑誌目録の刊行＞

利用者から刊行を望まれていました本館所蔵（神学部分館を含む）の雑誌目録のうち，昨年欧文編のみ発行しましたが，その後和文編の編集にとりかかり，その準備を終えたところで，先の欧文編に若干の追加・修正をして，更に新聞目録を加えて，このたび欧文編，和文編，新聞目録を一本にして発行しました。各閲覧室に備付けていますので利用してください。

告知板

○大学祭期間中の開館

大学祭期間中も平常通り9時から21時まで開館しますが，この間1階学習室は閉室します。

○冬季休暇中の開館時間および休館日

12月25日（火）　クリスマス休館
26日（水）　9.00～21.00
27日（木）　9.00～12.00
28日（金）
1月5日（土）　年末年始休館
7日（月）　9.00～21.00

この間1階学習室は閉室

1月8日（火）より平常通り開館

○冬季休暇長期貸出

学部学生，別科生，専攻科生のみ
12月15日（土）～12月27日（木）5冊以内

大学院生のみ
10月26日（金）～11月17日（土）20冊以内

いずれも返却期限は1月17日（木）です。

＜人事異動＞

昇任（昭和54年8月1日付）

・係長今永義純司書は，課長補佐に昇任。

・倉光恵司書は，係長に昇任。

＜研修・出張＞

○54年度私大図書館協会総大会　於・麗沢大学
54・7・26～28　八木館長出席

○54年度九州地区著作権講習会　於・熊本
54・8・8.9　杉本課長補佐，倉光係長出席

○54年度私大図書館協会九州地区研究会　於・別府
54・9・29　品川，大塚両司書補出席

○54年度私大連盟主催図書館一般研修　於・熱海
54・10・2～5　荒川司書出席

○54年度私大図書館協会　西地区部会　於・同志社女子大学
54・10・5　杉本課長補佐出席

○54年度全国図書館大会　於・東京都
54・10・25～27　刀根司書長出席

○54年度大学図書館職員講習会　於・東京大学総合図書館
54.10.30～11.2　府川司書補出席

○54年度国連寄託図書館会議　於・外務省
54・11・1.2　今永課長補佐出席